

LRT 推進市民団体 調査報告

現在、全国各地で多くの市民団体が市民の足としての公共交通、LRT の導入実現に向け、様々な活動を行っています。そこで、本研究会の活動にも参考になるよう、活発に活動を行っている市民団体に、組織概要、行政・企業との関係、市民との関係についてなどをお聞きしました。今回は札幌市の「LRT さっぽろ」についてまとめましたものを報告いたします。今後引き続き、各団体について報告していく予定です。以下の内容は平成 13 年 12 月 8 日、札幌市にて、「LRT さっぽろ」の方々にお話を伺った際の内容、及び資料等より引用した内容です。

LRT さっぽろ

設立経緯

1996 年に JR 北海道が主催した第 3 回欧州大規模再開発先進事例視察団に参加していた吉岡宏高氏（たくぎん総合研究所）、鈴木等氏（北海道日建設計）がハノファー、アムステルダム、ミラノの LRT を使ったまちづくりに深い感銘を受け、LRT を中心としたまちづくりに関して深く研究しようと、1997 年に吉岡氏、鈴木氏ら民間人 3 人、吉岡氏がたくぎん総合研究所勤務時代に共同で事業を行っていた札幌市職員 3 人で札幌市職員自主研修グループとして LRT 研究会を発足させた。

主な活動内容

平成 9 年（1997 年）

- ・定例研究会（計 3 回）
市電沿線現地調査、LRT に関する知識充足等

平成 10 年（1998 年）

- ・定例研究会（計 13 回）
LRT に関する知識充足、欧米視察報告等
- ・アメリカ現地調査（9 日間、デンバー、チャタヌーガなど）
- ・ホクサイテック財団から補助金交付
北海道科学・産業技術振興財団（ホクサイテック財団）に補助金申請を行い、研究開発支援事業として 287 万円の補助金を受ける。

・名称変更

知識充足団体から政策研究団体への脱皮を図るということで、会の名称を「LRT 研究会」から「LRT さっぽろ」に変更した。

・他団体との交流

小樽市の「小樽まちづくり協議会」、札幌市の「札幌 LRT の会」と交流を行っている。

平成 11 年（1999 年）

- ・定例研究会（計 17 回）
まちづくりコンセプトワーク、提言書作成、手稲まちづくり交通構想の研究等
- ・提言書発行



LRT さっぽろが発行した提言書（全 160 ページ）

全 160 ページの提言書「LRT が走る 2015 年の札幌」を発行した。この提言書には、全国各地からの注目を集め、現在までに約 1200 部売れている。現在市内 3 大学、札幌市役所新人研修のテキストとして使用されている。

- ・ヨーロッパ現地調査
（17 日間、フライブルグ、シェフィールド）
- ・政策形成合宿（6 名、1 泊 2 日、岩見沢市）

・市との意見交換

札幌市都市研究室主催研修会において活動報告、また札幌市助役と意見交換を行っている。

・他団体との交流

「札幌 LRT の会」、「札幌弁護士会公害環境委員会」との意見交換会、広島市の「路面電車を考える会」で提言書について講演を行っている。

平成 12 年（2000 年）

- ・定例研究会（計 4 回）
活動方針の検討、まちづくり交通構想の研究、組織体制拡充についての検討等
- ・市議への説明会
2 回に分けて札幌市議会議員への提言書説明会を行っている。

この説明会には議員計 18 名（民主 12，自民 2，他 4）参加している。

・手稲まちづくり交通構想の完成

手稲まちづくり交通構想が完成，手稲区連合町内会役員ら 50 名に対し構想内容の説明会を行っている。

・欧州現地調査（22 日間 カールスルーエ，ルールなど）

（15 日間 ストラスブルなど）

（グルノーブルなど）

・商工会議所への意見書提出

札幌商工会議所副会頭に意見書の提出を行っている。

・マスコミからの取材

時事ジャーナル記者からの取材，朝日新聞記者からの取材を受ける。

・政策形成合宿

平成 13 年（2001 年）

・定例研究会（計 8 回）

札幌市から発表された都市交通ビジョンへの対応の構想，提案の検討等

・ホクサイテック財団から補助金交付

ホクサイテック財団から 163 万円の資金援助を受ける。

・テレビ番組への出演

NHK テレビ『ほっからんど北海道』に出演し，LRT について紹介した。また UHB テレビ札幌市広報番組『いいコト聞いた』『とことんリサーチ札幌』にも出演し，活動や LRT によるまちづくりの紹介を行っている。

・イベントへの参加

『東区まちづくりコミュニティマーケット』に参加し，LRT パネルを出展している。また自治体学会函館大会ポスターセッション，都心まちづくりフォーラムポスターセッションにもそれぞれ出展している。

LRT さっぽろが掲げる都市交通施策

国内の他の大都市に比べ，交通問題が深刻化していないが，将来の札幌市におけるまちづくりの一つの手段として，LRT を捉えている。LRT は，徒歩，自転車，バス，鉄道などの交通機関とつながりがあるだけでなく，環境，福祉，まちづくりなど様々なものと関連があるという理由から，「LRT さっぽろ」は LRT に着目している。

具体的な路線として，

都心の交通利便性の向上

都心と郊外の連絡

をポイントにして，構想している。また，LRT を導入する上での障害となる 自動車との関係 建設資金・運営資金 積雪寒冷の対応についても具体的な対応策を提示している。このような構想路線や具体策は，160 ページの提言書にまとめられており，その提言書には，市や各企業から評価を得ている。

組織における特徴

設立時の会員は 7 名で，多様性を持たせるため，途中，意図的に 5 名増やし，現在は 12 名となっている。『市民のシンクタンク』として知識を集約させてプランを形成していくことを方針としているため，少人数制による団体となっている。

会員の構成は，1/3 が市職員，1/3 がコンサルタント，残りの 1/3 には，百貨店社長秘書，弁護士，JR 北海道社員が名を連ねている（このインタビュー後，2 名増え計 14 名に増員）。

組織面においても，160 ページの『提言書』を作成したことによって，それぞれ会員一人一人の考え方を 1 つにまとめようとしたことに大きな効果があった。

今後の課題として，少人数制であるため市民運動における力が弱いので，どのように市民運動を展開していくかが大きな課題である。

活動における特徴（行政・企業・市民との関係）

少人数で，市民がまちづくりに参加し，政策をまとめる上での能力の部分の補助をすること，また，いいプラン，知識のあるところに人が集まるということで，「市民のシンクタンク」としてハイレベルな提言運動を行うことを活動方針としている。

行政・企業・各団体へのアプローチとして提言書は大きな効力があった。またこの提言書について，市議会議員に対して説明会を行っている。ホクサイテック財団から補助金を受け，会員全員で 20 カ国 97 都市の現地調査を経て，会員のそれぞれの専門性を活かし，綿密な研究を積み重ねて作成したものに札幌市や企業等の関心を寄せた。札幌市は 2001 年 5 月に『都心交通ビジョン』を発行し，行政と市民がお互いにまちづくりを行っていくきっかけができてきている。

市民へのアプローチは，市民の関心を引くための施策を打ち出すことに重点を置いている。今後は広報運動にも力を入れていく方針である。

「LRT さっぽろ」のハイレベルな提言活動には，札幌市だけではなく，全国的に注目を集めている。今後の会の発展と，1 日も早く札幌市に LRT が走る日が来ることを大いに期待したい。

（報告者 平田 暁彦 前久保 俊二）